

採択された事業の概要

富士山観光振興と連携したスマートリサイクルBOXの設置による、ごみ散乱抑止及び再資源化の促進

事業実施場所：山梨県富士吉田市

事業実施事業者

代表事業者：MS&ADインターリスク総研株式会社、三井住友海上火災保険株式会社

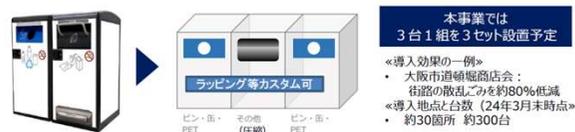
事業実施場所

山梨県富士吉田市内
下吉田駅前、本町通り、新倉山浅間公園

【事業概要】

富士吉田市内の観光客の集中する地域（2～3拠点を想定）に、サイネージ付きのスマートリサイクルBOXを設置し、観光地のマナー啓発・分別案内等を行う。実施状況を定性・定量の両面から把握し、富士山を中心とした観光資源を活用した、ごみの散乱防止及び再資源化促進の効果を検証する。

スマートリサイクルBOXの概要、本事業における設置案



背景：

山梨県富士吉田市は、「富士山に限りなく近いまち」として、アジア圏からのインバウンドを中心に観光客が増加している。直近の主な観光目的は市内の街並みと富士山の撮影であり、市内各所の撮影スポットには観光客が殺到している。

目的：

富士吉田市内の各撮影スポットを中心とした地域が抱える“ごみ”についての課題解決の手段として、富士山の持つ魅力をごみ箱の仕様に活用することで、ごみ箱への正しい投函、適正分別を促し、資源再利用を効果的に実現するアプローチを検証する。

目標：

- ・スマートリサイクルBOX 設置による散乱ごみの減少
- ・資源ごみの正しい分別の増加による再資源化の促進

- ・事業実施前後に周辺のごみ散乱状況を計測
- ・一部で「資源自動判別装置」をスマートリサイクルBOX内へ設置し、投入ごみの種類を自動判別し、画像・重量等を計測



資源自動判別装置のイメージ

有料ごみ箱を活用した上信越国立公園・谷川岳の保全と地域活性の共存モデル事業

事業実施場所：群馬県みなかみ町

事業実施事業者

代表事業者：株式会社JTB 群馬支店

事業実施場所

群馬県みなかみ町 谷川岳

【事業概要】

有料のごみ箱を設置し、観光客に「ごみ」は自宅に持って帰るという選択肢に加え、「お金を払ってごみを処分してもらう」という新しい価値を提供し、持続可能な域内経済循環の実現を図る。みなかみ町や谷川岳が抱える地域課題を解決するために、以下の取組を行う。

- ①有料のごみ箱にクーポン排出機能等を開発し、地域事業者と連携し消費活動の回遊を図る
- ②ごみ拾いモニターツアー、マイボトルの推進活動、野生動物の食害防止対策等を行い、観光客に対して観光保全に参加しているという意識醸成と行動変容を図る



ごみ箱制作の
開発イメージ

背景：

群馬県みなかみ町は、2023年より訪日インバウンドが急増し、温泉街の再生を含め大型投資の流入も多く、夏のラフティングや海外からの冬のスキーを含め都心から近い自然環境を求めて今後更なる観光客の増加が見込まれる一方、ごみのポイ捨て、観光客のマナー悪化による環境への影響、野生動物の食害等が発生している。

目的：

- ・自治体及び観光事業者が「首都圏を支える谷川岳という貴重な水源の保全に誇りを持つ」という意識の元、一体感の醸成を図る。
- ・インバウンドの増加と共に全国観光地でのごみ問題が顕在化している中で、まずは意識変革と行動変容が起きやすい環境である自然豊かな観光地で、本事業をモデルとし全国への横展開を実施する。

目標：

- ・ごみのポイ捨ての減少
- ・観光客のマナー向上、観光事業者の意識変革
- ・みなかみ町・谷川岳の自然環境における認知拡大
- ・本モデル事業の横展開

観光客・観光地、双方の協力を促し、観光地をきれいに保つ取り組み



地域活性の共存モデル事業のイメージ

デジタル技術やIoTを活用したポイ捨てごみの発生抑止ならびに、ナッジやインフォグラフィックス等を活用した観光地における3R推進による、環境保全と観光振興の両立に向けたサステナブル・ツーリズム促進事業モデル

事業実施場所：広島県廿日市市

事業実施事業者

代表事業者：BIPROGY株式会社

事業実施場所

広島県廿日市市 宮島エリア

【事業概要】

宮島のごみ問題への対策として、IoTスマートごみ箱を活用した以下の取組を実施する。

- ①デジタルサイネージやデジタル周遊マップと連携した、適切な情報発信によるマナー違反に対する啓蒙
(デジタルマップ上に新たに「IoTスマートごみ箱の設置案内を表示」し、ごみ箱の周知とともに、トイレや街路の混雑状況を可視化)
- ②IoTスマートごみ箱の設置並びに誘導施策に基づくポイ捨て・置き捨てごみ抑制
- ③ナッジやインフォグラフィックス、飲み残し専用BOXの活用による適切な分別排出の促進

背景：

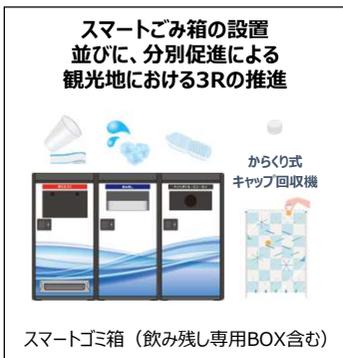
宮島は指定90周年を迎える瀬戸内海国立公園の一部であり、原始林など豊かな自然と、世界文化遺産にも登録された厳島神社をはじめとする日本文化が織りなす景観が広く親しまれ、多くの観光客が訪れているが、ごみ箱の設置箇所の情報やごみの処分に関するルールの周知不足等により、ごみのポイ捨てが増加し、景観の悪化やシカによる誤食の懸念、テイクアウトに伴う大量の飲み残しの処分等が課題となり、観光への影響が懸念されている。

目的：

- ・デジタル技術やIoTを活用したポイ捨て・置き捨てごみ抑制による、環境保全の実現
- ・食べ歩きごみの分別排出・ペットボトルの3分別推進によるボトルtoボトル啓発、観光地における3R実現
- ・適切な情報発信やごみ箱の新規設置による、更なる観光地の魅力向上

目標：

- ・マナー違反への啓蒙、ポイ捨てや置き捨てごみへの抑制効果
- ・観光地における分別排出・ペットボトルの3分別の推進効果
- ・IoTごみ箱を活用した適切な回収オペレーションの実現



東京都内における植栽等路上構造物設置によるごみのポイ捨て抑制効果の検証モデル

事業実施場所：東京都23区内

事業実施事業者

代表事業者：株式会社ピリカ

事業実施場所

東京都豊島区東池袋（ハレザ池袋周辺）

東京都品川区東品川（天王洲ポンドストリート周辺）

東京都新宿区歌舞伎町（東急歌舞伎町タワー周辺）

【事業概要】

都内でごみのポイ捨てが深刻と想定される新宿区歌舞伎町、豊島区池袋および社会的地域特性の比較のために品川区天王洲エリアを追加し、3地域を中心とした都内の複数エリアに植栽を設置し景観を向上させ、設置前後のポイ捨て状況の比較を行うことで、人々のポイ捨てに対する行動変容が促進されるのかを実証し、環境保全と景観維持の両立を目指す。設置前後のポイ捨て状況は、スマホと画像解析によるごみ分布調査サービスを用いて検証する。



背景：

植栽の設置は、間接的に社会的迷惑行為への他者からの視線を想起させ、そのことによる逸脱行為の抑制・協力行動の促進をもたらすとする進化心理学的観点に着想を得た試みである。しかし、個々の取組では着実な効果が得られているにも関わらず、対外発信が積極的に行われず該当地域だけの単発的な取組に終始し、ゆえにサンプルデータが限定的であるため、各自治体が対策として実施するための即効性や実現性を検証できないまま、採用されないといった状況に陥っている。

目的：

都内の複数エリアに植栽を設置し景観を向上させ、設置前後のポイ捨て状況の比較をおこなうことで、人々のポイ捨てに対する行動変容が促進されるのかを実証し、環境保全と景観維持の両立を目指す。

目標：

周囲のポイ捨てを30%程度削減できる路上構造物パターン（検証要素）を見つけ出すことを直接的目標として定める。

